

院内がん登録・DPCデータと病理・放射線診断情報のデータの一元化と活用に関する研究

当センターでは、国立がん研究センターがん対策情報センターが実施する「院内がん登録・DPCデータと病理・放射線診断情報のデータの一元化と活用に関する研究」を行っています。

[対象となる方]

2013年1月1日から2015年12月31日に、がんと診断され、がん診療連携拠点病院で義務化されている院内がん登録において症例登録を行った患者様です。

[研究の背景] 平成19年4月よりがん対策基本法が施行され、重点課題ひとつにがん診療の均てん化の促進が挙げられており、がん医療に関する情報の収集及び提供を行う体制を整備することの必要性が記されている。院内がん登録はがん診療連携拠点病院においてその実施が指定要件として義務化され、その蓄積データより、がん患者の診断日、がんの部位・病理組織型、臨床・病理ステージなどの基本情報と、診療報酬請求情報（DPC）をリンクするなどしてその患者の診療内容を研究することが可能となった。ここでは、さらに均てん化推進のためには病理診断や画像診断などを含む専門家育成とともに診療実態の把握と支援方法の検討を行う事が必要である。

[研究の目的]

本研究の目的は、以下の2点である。

1. これまでの院内がん登録+DPCのデータに①放射線画像／レポート、②病理レポート情報を突合し、新たなデータベースを構築する。
2. 突合データを研究参加施設において診療支援・教育に活用可能とするため診療情報検索システムを開発する。

[研究の方法]

院内がん登録、およびDPCデータは既に別途研究において、毎年国立がん研究センターがん対策情報センターがん統計研究部へデータの蓄積が行われており、研究参加施設においては、すでに収集されたデータと別途提出する病理診断のデータを使用する。

- a) 院内がん登録情報の放射線診断情報、病理情報による検証
- b) 病理診断における免疫染色や特殊検査など、病理診断における診療パターンの分析、などを想定する。
- c) 機械学習の技術を用いて、所見のテキスト情報から必要情報を抽出する最適のアルゴリズムの開発
- d) 院内がん登録やDPCの診断や診療行為のコードを元にして、画像を検索し、診断や教育に役立てるツールを開発

[データの管理]

収集したデータは国立がん研究センターにて厳重な管理のもと保存されます。ご不明な点があれば、下記までお尋ねください。

[問い合わせ先]

責任者 病理診断科 診療部長 田中 慎介

〒747-8511 山口県防府市大字大崎 10077 番地

Tel 0835-22-4411